

## 世界遺産を掘る 第4回 — 銀閣寺と足利義政 —

(公財)京都市埋蔵文化財研究所 高橋 潔

### 1 はじめに

銀閣寺は、正式には臨濟宗相国寺派大本山相国寺に属する別格寺で東山慈照寺といえます。室町幕府第八代将軍・足利義政が、文明14年(1482)から造営を開始した山荘・東山殿を前身とし、義政の死後にその遺命によって禅刹に改められたものです。

その後、戦国期には荒廃しましたが、江戸時代初期に大規模な修理事業が行われ、現在の景観はこの頃に整えられたといわれます。

大正14年(1923)には庭園が「特別史跡・特別名勝慈照寺(銀閣寺)庭園」、昭和6年(1931)には旧境内が「史跡慈照寺(銀閣寺)旧境内」、昭和27年(1952)には庭園が特別史跡および特別名勝に指定され、平成6年(1994)には「古都京都の文化財」として市内の寺社・城郭など17箇所とともに世界文化遺産に登録されています。また、東求堂と観音殿(通称・銀閣)は昭和26年(1951)国宝に指定されています。

### 2 足利義政とその時代

足利義政は、永享8年(1436)6代将軍・足利義教の3男として誕生しました。母は日野重子です。父であった6代将軍・義教は、苛烈な恐怖政治の果てに嘉吉元年(1441)赤松満祐によって暗殺されます(嘉吉の変)。嫡男・義勝が将軍職を継ぎ、翌年7代将軍となりますが、嘉吉3年(1443)に病死してしまいます。その後を継いだのが8歳の義政でした。義政は文安6年(1449)に元服し、8代将軍となりました。康正元年(1455)には日野富子を正室として迎えます。

義政は幕府権力の復活を目指しました。ところが、このころ旱魃や長雨による凶作が続き、飢饉や悪疫が流行して、各地で多くの餓死者が出たといわれます。また、土一揆が相次ぎ、地方での大名間の抗争も頻発するなど、不安定な政局が続きました。義政は適切に対処することなく、反して邸宅の修造や造営に次々着手し、その財源確保のため、地方の大名や山城国の



伝足利義政像  
(東京国立博物館蔵)



足利義政木像  
(等持院霊光殿)



足利義政公法体(像)  
(慈照寺東求堂)

領主などに費用や人夫を供出させたり、関を設けて通行税を徴収したりしました。

義政は将軍職を辞したいと考え、寛正5年(1464)後継者として異母弟の義視を指名しますが、翌年富子が男子(後の義尚)を出産し、この後継者問題がそれぞれを推す細川勝元と山名持豊の対立を決定的なものとし、応仁・文明の乱の契機となったともいわれています。

義政の政治的な手腕はほとんど評価されていませんが、わび・さびに重きを置く「東山文化」は、義政が力を注いだ能、茶道、立花、庭園、建築、連歌などの多様な芸術が開花した時代で、現在の日本文化の基礎ともいわれます。

### 3 銀閣寺の造営とその後

義政は隠棲の地を求め、寛正6年(1465)南禅寺塔頭恵雲院に山荘造営を計画しました。一旦は応仁・文明の乱のため断念しますが、文明5年(1473)に将軍職を義尚に譲り、同14年(1482)2月に東山・浄土寺の地で山荘の造営に着手します。

浄土寺については、詳細がよくわからないのですが、平安時代中期(10世紀後半)には記録に現れます。義政の異母弟・義視が嘉吉3年(1443)に浄土寺門跡となりますが、文安6年(1449)の失火で、主要な建物を焼失してしまいました。東山山荘の造営にあたり、浄土院を残し、相国寺の西へ移建されたそうです。

東山山荘の造営は文明14年(1482)2月4日に始まったとされています。主要な建物は、文明15年(1483)常御所、同17年(1485)西指庵、同18年(1486)東求堂、長享元年(1487)会所・泉殿、延徳2年(1490)観音殿の順に造営が続けられました。義政は常御所の完成を待って移り住み、文明17年(1485)臨濟宗天竜寺派臨川寺三合院で出家(法名:喜山道慶)しますが、延徳2年正月観音殿の完成を見ることなく55歳で死去します。遺言により、西指庵に遺骨を安置したといわれています。また、義政の菩提を弔う寺として「慈照院」と称しますが、その後すぐに「慈照寺」と改称されます。

この後、戦国期に入ると、幕府の衰退とともに、何度も戦乱に巻き込まれるなど荒廃の一途を辿り、東求堂と観音殿以外の主要建物は失われたとされます。

ようやく、江戸時代前期に宮城丹波守豊盛によって大規模な修理事業を経て現在の景観が整えられたといわれています。

### 4 銀閣寺境内の考古学的調査

1930年 京都府の現地調査による西指庵の位置についての考察(西田1931)。1931年 お茶ノ井と漱蘇亭跡の調査(吉永1935)。

1965年 国宝・東求堂の解体・修復工事に伴う基壇の発掘調査(京都府1965)。1979年 錦鏡池の浚渫工事に伴う調査(尼崎ほか1979)。

1986年 庫裏の解体・新築工事に伴う発掘調査（前田ほか1989）。

1993年 境内防災設備関連の配管埋設に先立つ発掘調査（南ほか1996）。

2003年 中門の解体・新築工事と参道西側のトイレ・売店新築工事に伴う発掘調査（高橋ほか2003）。

2007年 研修道場などの新設工事などに伴う発掘調査（内田2008）。

2008年 研修道場に伴う配管工事に先立つ発掘調査（高橋2009）。

2009年 国宝・観音殿（銀閣）の解体修理に伴う基壇部分の発掘調査（京都府2010、引原2010）。

## 【参考文献】

西田1931 西田直二郎「銀閣寺西指菴遺址」『京都府史蹟名勝天然記念物調査報告』第十二冊、京都府、1931年

中野1931 中野楚溪「発掘された東山殿の石庭について」『史迹と美術』14、史迹・美術同攷会

吉永1935 吉永義信「銀閣寺（慈照寺）庭園」『名勝調査報告』第二輯、文部省、1935年

赤松ほか1964 赤松俊秀・川上貢『金閣と銀閣』淡交新社、1964年

京都府1965 京都府教育委員会『国宝慈照寺東求堂解体修理工事報告書』1965年

尼崎ほか1979 尼崎博正・井内光彦・岩城徹・飛田範夫「銀閣寺（慈照寺）園池の池底と護岸石組について」『史迹と美術』495、史迹美術同攷会、1979年朝日新聞社1986 週刊朝日百科 日本の歴史15 中世Ⅱ－⑤『金閣と銀閣』朝日新聞社、1986年

慈照寺1988 慈照寺『史跡 慈照寺（銀閣寺）旧境内保存整備事業報告書』1988年

前田ほか1989 前田義明・梅川光隆・吉崎伸「慈照寺（銀閣寺）境内」『昭和61年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所、1989年

宮上1995 宮上茂隆「東山殿の建築とその配置」『日本史研究』399、日本史研究会、1995年

百瀬1995 百瀬正恒「東山殿（慈照寺）の建物配置と庭園」『日本史研究』399、日本史研究会、1995年

野田1995 野田泰三「東山殿足利義政の政治的位置付けをめぐって」『日本史研究』399、日本史研究会、1995年

南ほか1996 南孝雄・百瀬正恒・清藤玲子「特別史跡特別名勝慈照寺庭園」『平成5年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所、1996年

南1998 南孝雄「慈照寺（銀閣寺）庭園」『発掘庭園資料（奈良国立文化財研究所史料 第48冊）』、奈良国立文化財研究所、1998年

高橋ほか2003 高橋潔・近藤知子『史跡 慈照寺（銀閣寺）旧境内』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2003-1、2003年

有馬ほか2007 有馬頼底・久我なつみ『銀閣寺（古寺巡礼 京都11）』淡交社、2007年

内田2008 内田好昭『史跡 慈照寺（銀閣寺）旧境内』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2007-16、2008年

キーン2008 ドナルド・キーン（角地幸男訳）『銀閣寺と足利義政』中公文庫、2008年（『ドナルド・キーン著作集』第7巻、新潮社、2013年に再録）

高橋2009 高橋潔『史跡 慈照寺（銀閣寺）旧境内』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2008-11、2009年

京都府2010 京都府教育委員会『国宝慈照寺銀閣修理工事報告書』、2010年

引原2010 引原茂治「国宝慈照寺銀閣発掘調査と予察」『京都府埋蔵文化財論集 第六集』、2010年

田端2011 田端泰子『足利義政と日野富子』日本史リブレット人040、山川出版社、2011年

## 慈照寺関連略年表

西暦	年号	主な出来事
1441	嘉吉元年	6月 <b>嘉吉の変</b> （6代将軍・ <b>義教</b> 、赤松満祐に暗殺）。8月 嘉吉の土一揆。9月 徳政令公布。
1442	嘉吉2年	11月 <b>義勝 7代将軍</b>
1443	嘉吉3年	7月義勝 死去⇒義政（義教の3男）足利家家督を継ぐ。⇒義政 烏丸御殿 増築／新築／解体移築（～1458）。
1449	文安6年	4月 <b>義政 8代将軍</b> 。 <b>浄土寺焼失</b> 。
1454	享徳3年	10月 文一徳政令 発布。
1455	康正元年	将軍御殿（烏丸殿） 修復工事終了。 室町御殿「花の御所」へ移築。義政 日野富子と婚姻。
1458	長祿2年	京七口に新たに関を設置＝通行税を徴収。
1459	長祿3年	長祿・寛正の飢饉（～1461）。2月 室町御殿 立柱上棟。 11月 義政 室町御殿へ移り住む。
1465	寛正6年	義政 伊勢貞親に命じ鹿ヶ谷に山荘予定地（南禅寺塔頭・恵雲院）を検じさせる。
1467	文政2年	1月 <b>応仁・文明の乱</b> （1467～1477） 義視・細川勝元 ⇄ 義尚・山名宗全
1473	文明5年	「花の御所」全焼⇒小河御殿へ避難⇒政所執事／伊勢貞宗の屋敷へ。12月 <b>義尚 9代将軍</b>
1477	文明9年	11月 <b>応仁・文明の乱</b> 終戦。義尚 日野勝光の娘を妻とする。
1482	文明14年	2月 義政 東山山荘造営開始（『後法興院政家記』、『大乘院寺社雑事記』）
1483	文明15年	義政 常御所が完成し、移り住む。後土御門天皇より「東山殿」の称号賜る。 <b>山城国一揆</b> 。
1485	文明17年	6月 義政 出家（臨川寺三会院、法名を喜山道慶）。
1489	長享3年	4月 義尚 近江六角高頼の討伐陣中で戦死⇒葬儀。義政 中風発作、左半身不随となる。
1490	延徳2年	正月 <b>義政 死去</b> （享年55歳）。2月 東山山荘を寺とし「慈照院」とされる。 3月 慈照院は「慈照寺」となる。
1491	延徳3年	3月 慈照寺にあった将軍義晴（12代）を三好宗三軍が攻める。 <b>罹災</b>
1550	天文19年	11月 将軍義輝（13代）軍と三好長慶軍の合戦。 <b>罹災</b>
1558	永祿元年	4月 三好長慶との合戦⇒東求堂と観音殿以外大半を失う。
1569	永祿12年	3月 織田信長が二条殿を造営。慈照寺庭園より九山八海石を移す。『原本信長記』
1585	天正13年	5月 前太政大臣近衛前久が奈良から移住（～1612）。
1615	慶長20年	宮城丹波守豊盛を奉行として大々的に修理事業（『鹿苑日録』）。
1639	寛永16年	方丈・客殿・玄関・庫裏・門を造立、東求堂・観音殿を修理。
1738	元文3年	総門・庫裏・東求堂など修理。
1742	寛保2年	東求堂 修理。



2008年1区 室町後期 石積遺構



2007年1区 江戸前期 溝



2007年2区 江戸前期 石組溝



2007年2区 室町後期 石垣・溝



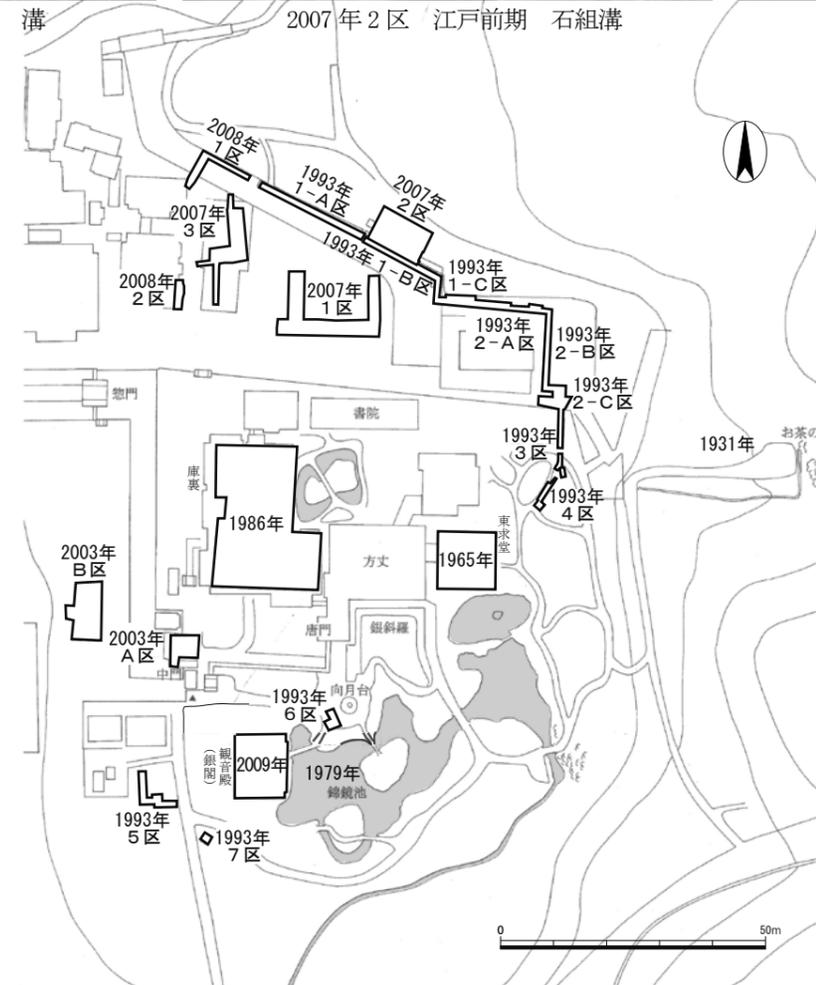
1993年1-C区 室町後期 石垣溝



2007年3区 室町後期 堤



1986年 解体された庫裏の遺構（江戸後期）



1993年2-C区 室町後期 導水施設



1993年3区 室町後期 基壇を伴う礎石建物



2003年B区 室町後期 石敷



1986年 室町期～安土桃山期遺構面



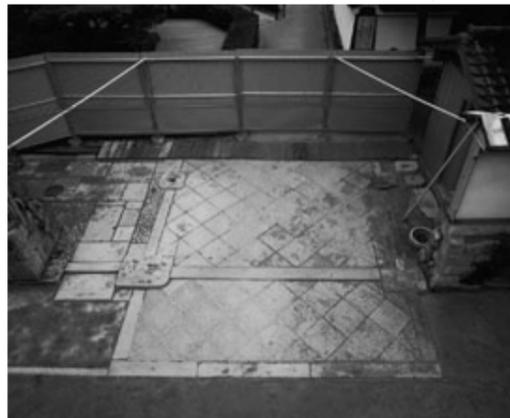
1993年6区 調査地点



1993年6区 室町期 暗渠



2003年A区 解体前中門



2003年A区 中門解体後の基壇



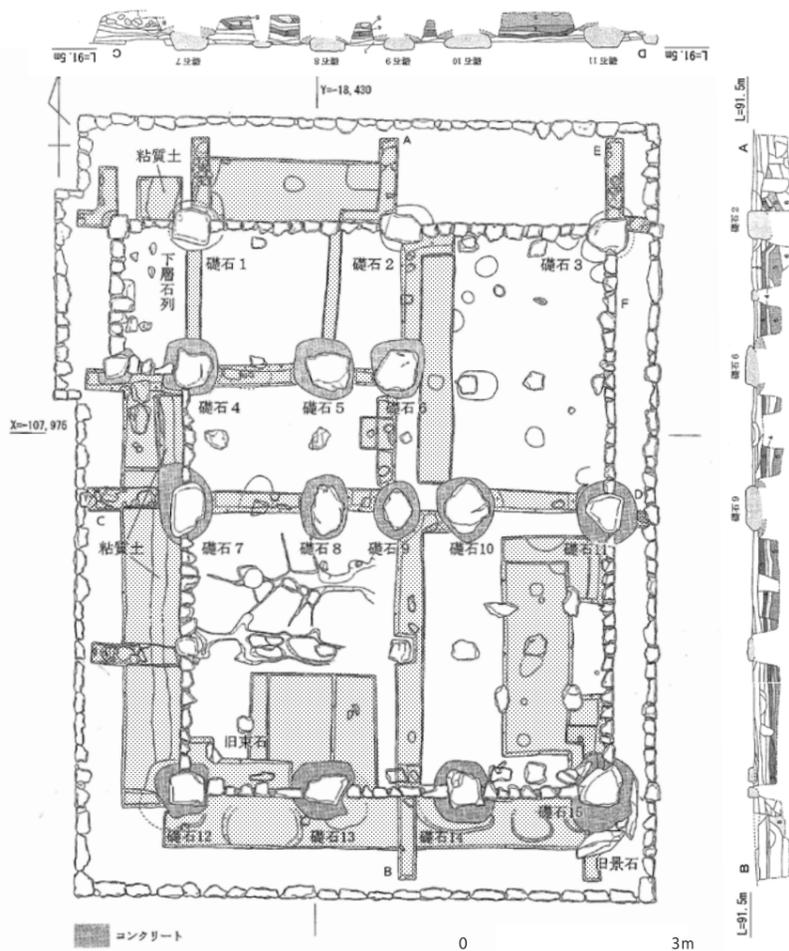
2003年A区 江戸初期 中門跡



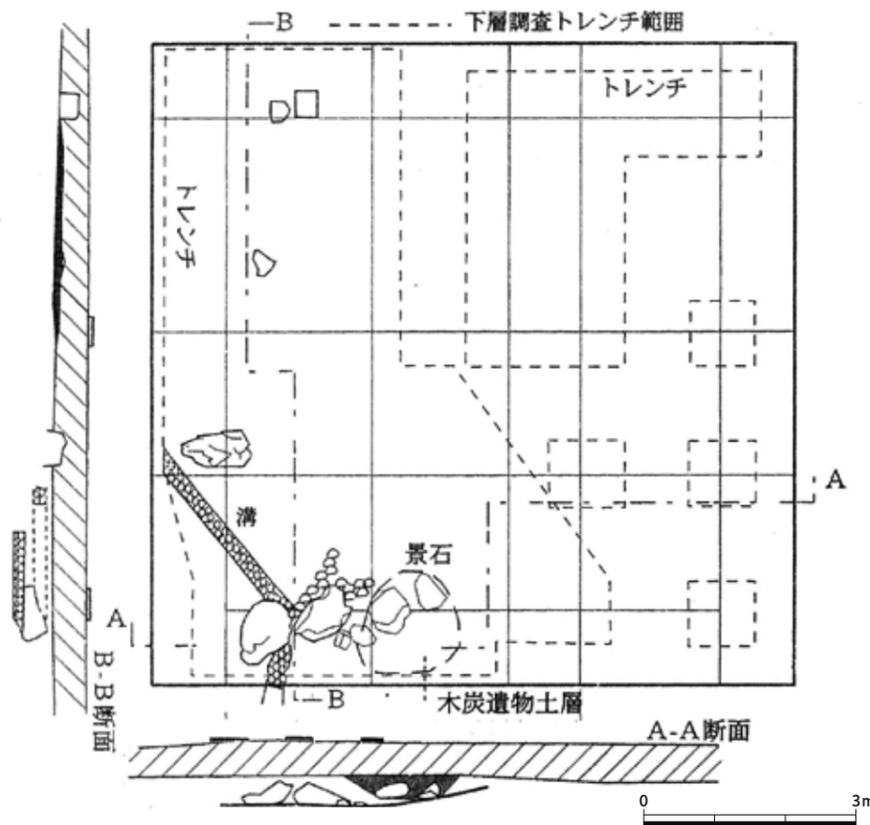
2003年A区 室町後期 石列



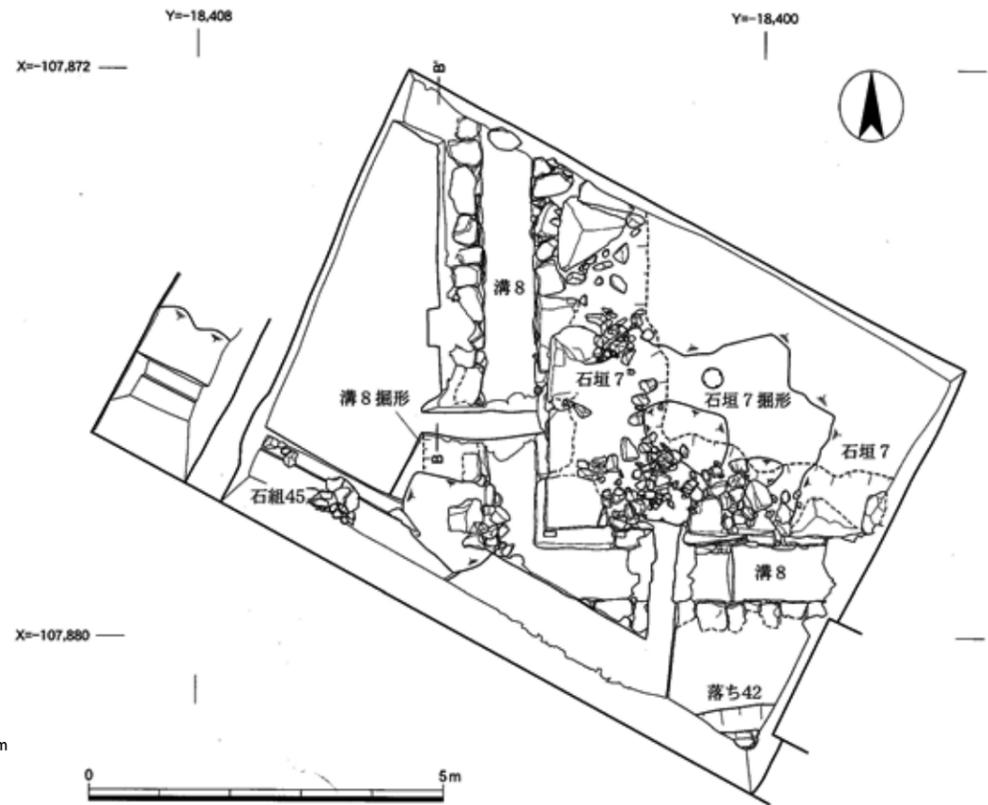
2003年A区 平安後期 石積と溝



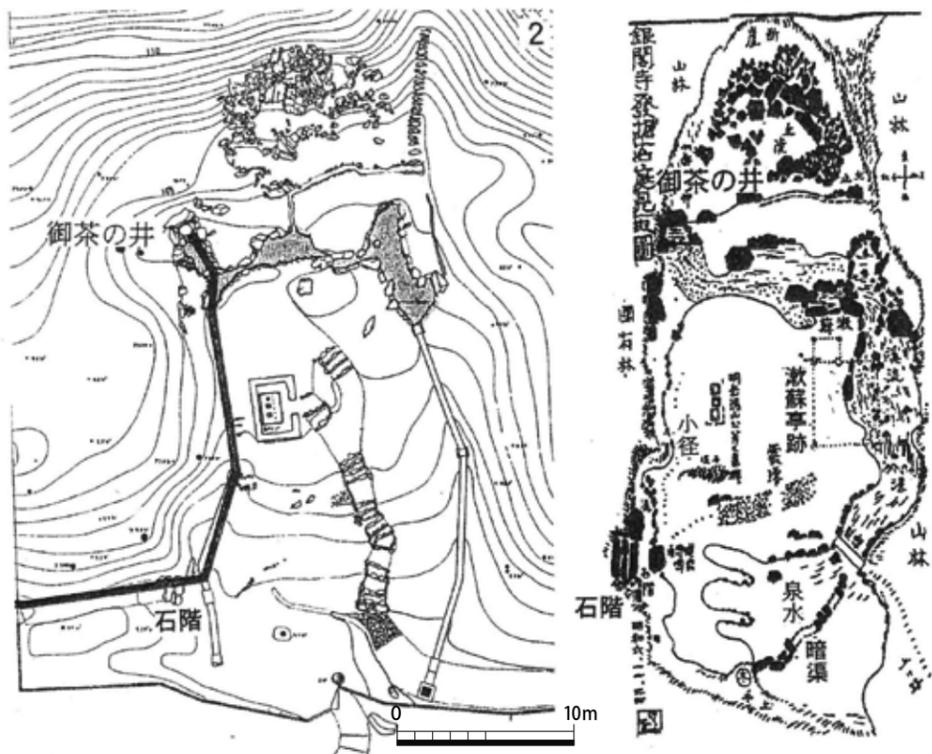
2009年 観音殿基壇調査 (引原 2010 に加筆)



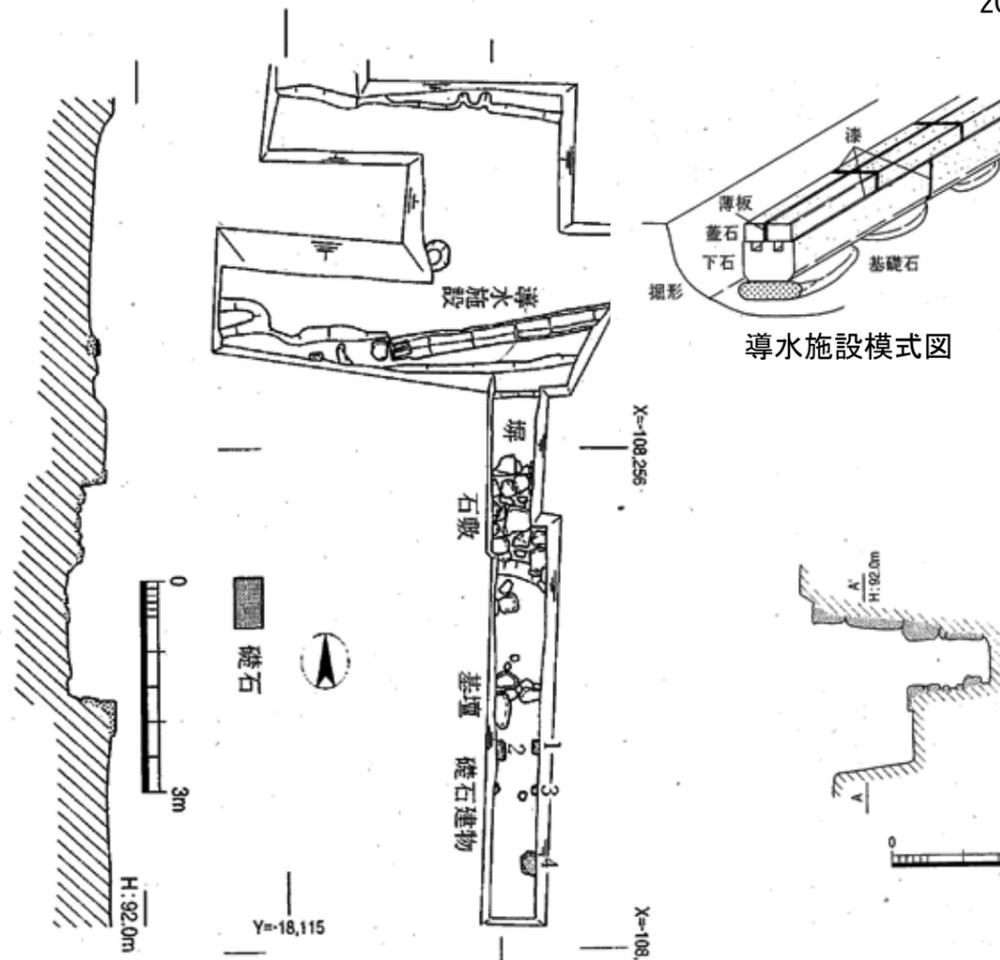
1965年 東求堂基壇調査 (百瀬 1995)



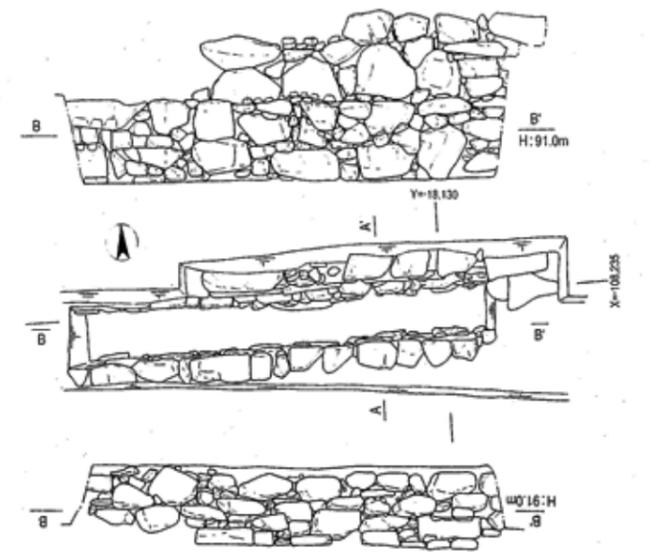
2007年 2区 石垣・溝 (内田 2008)



1931年 お茶ノ井・漱蘇亭跡調査 (百瀬 1995 に加筆)



1993年 2-C区 導水施設・基壇建物 (南ほか 1996)



1993年 2-A区 石垣溝 (南ほか 1996)



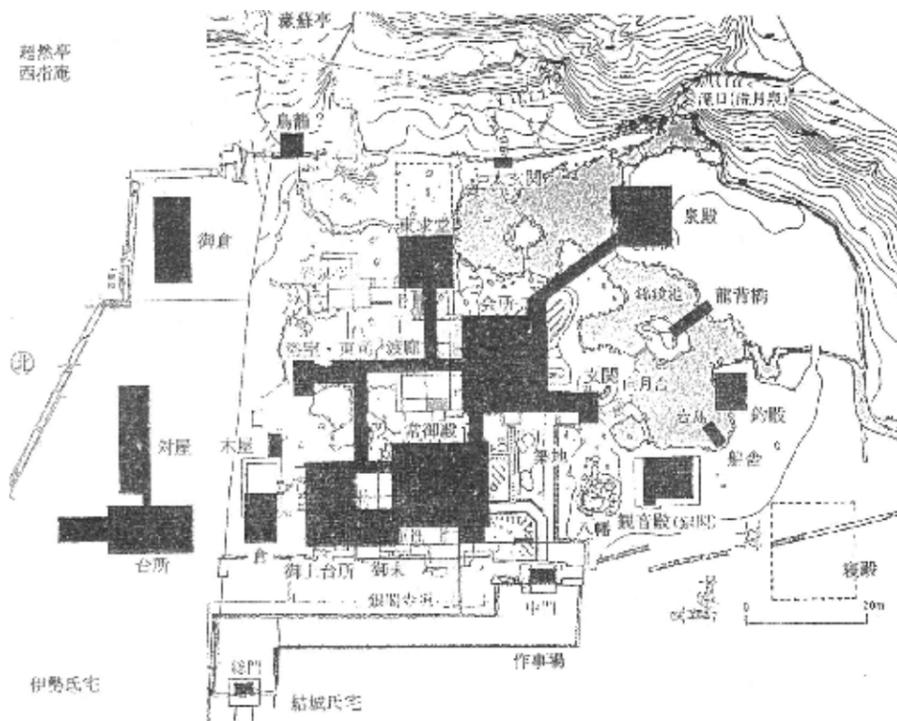
都名所園会 安永9年(1780)



都林泉名勝園会 寛政11年(1799)



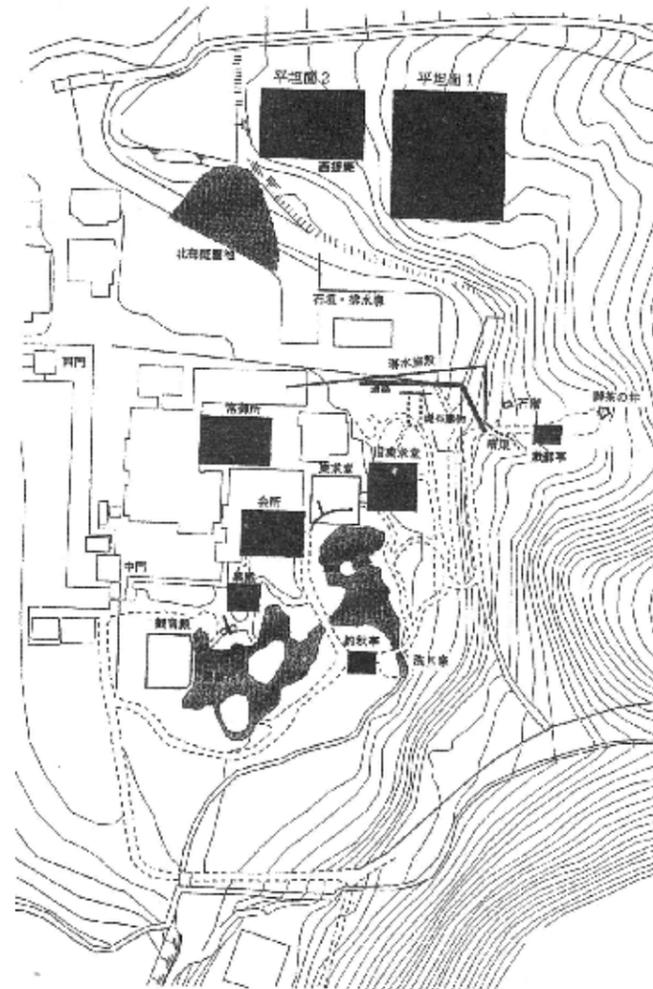
花洛名勝園会 元治元年(1864)



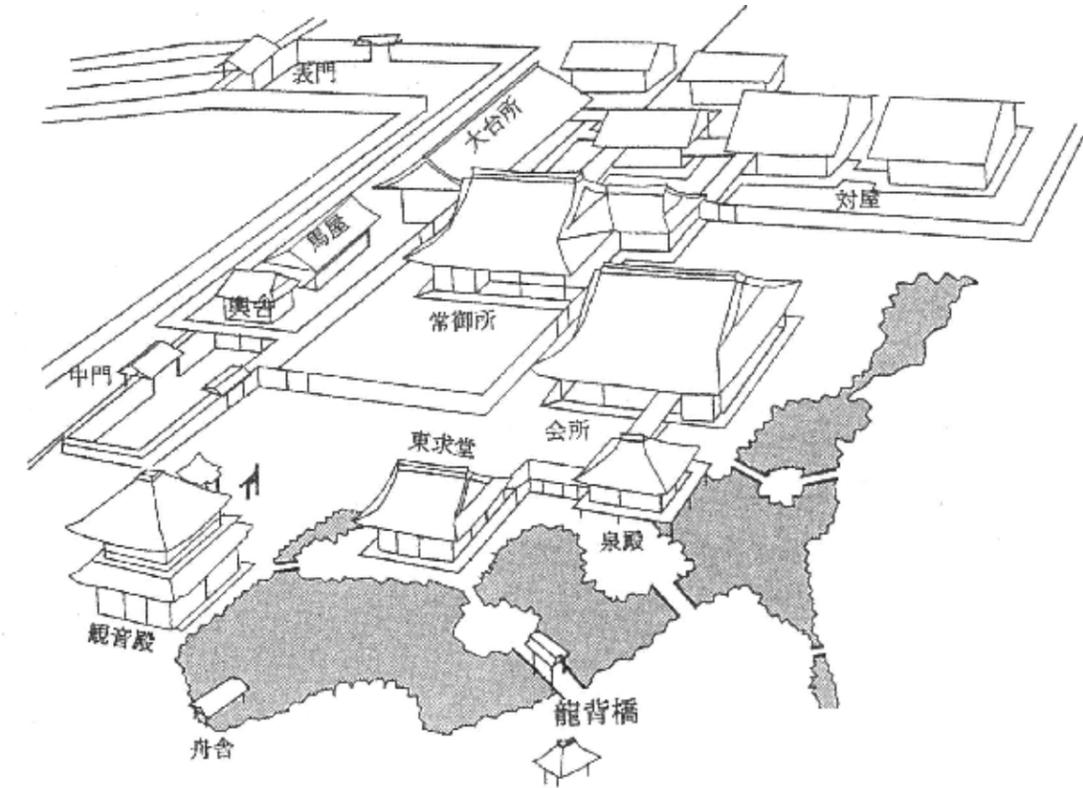
挿図7 東山殿復元配置図

森繼氏作成現状実測... えるなど手を加え、  
その上に重ねて、フタビ知物の復元配置図をかけた。

東山殿建物配置復元案1 (宮上案 宮上1995)



東山殿建物配置復元案2 (百瀬案 百瀬1995)



東山殿建物配置復元案3 (川上案 百瀬1995)

参考 週刊朝日百科日本の歴史15中世II-⑤ 『金閣と銀閣』朝日新聞社、1986年